

(一) 次の文章を読んで、後の問い(問一～十二)に答えよ。

ここでは共生の思想を社会システムとして具体的なかたちにしていくためには、「コモンズ」という概念が有効であることを、いくつかの視点から考察していく。コモンズは、わが国では「入会^{いっかい}」を目的とする共有地を指す言葉で用いられているが、欧米では公園などのオープンスペースの意味合いで幅広く使われている。使われる国や主体によってその定義は異なるが、共通しているのは排他的でなく共同で利用できるといふ特性である。

コモンズといえば、ハーディンの「コモンズの悲劇」という言葉がよく引用される。イギリスの放牧地を例に取り、共用の放牧地にだれでも牛を放牧することができると、ただで草を食べさせられるわけだから、みんな一頭でも多くそこに放牧しようとする。

I、たくさんの方が多くの牛をそこに放牧してしまうがゆえに、草がなくなつて、放牧された牛たちは死んでいく——という悲劇を紹介したものだ。「コモンズの悲劇」は経済学でよく使われるが、ハーディンは経済学者ではなく生物学者で、一九六八年に、『サイエンス』という雑誌に発表されたものだ。これは人間というのは、みんなが全員の将来のことを考えて行動するのではなく、自分のエゴ、自分に都合のいいように行動していくものだから、市場原理に任せておくと、そのような共有地は悲劇をもたらす、という考え方である。特に一九六八年は公害問題が巻き起こっていた時であり、ハーディンのこの考え方は、環境問題や公害問題が出てきた状況を説明するために大変分かりやすく、広まっていた。

II、一方でこの悲観的なストーリーのイメージから、コモンズに対して否定的なイメージが浸透^aしていったともいえる。皮肉な表現をすれば、これこそ「コモンズにとっての悲劇」であったかもしれない。

しかし、ハーディンの提起した悲観的なコモンズ論とは異なる視点でコモンズ論を提起した学者が現れた。二〇〇九年にノーベル経済学賞を受賞した、エリノア・オストロムである。彼女はアメリカの政治学者で、女性初のノーベル経済学賞受賞者でもある。彼女の業セキ^bは、コモンズのガバナンスに関する研究で、自主的な取り決めによる政治的意思決定の構造解明に取り組み、自主的な統治によるコモンズが成立することを立証したのである。彼女が研究対象としたコモンズは、世界中の水資源、漁業資源、森林資源などを地元地域の人々が管理するというものである。それらの資源の利用については、近年深刻な利害対立が発生し、諸地域においてさまざまな問題が発生してきている。彼女は、その解決に向けて、これまでのような「政府か」「市場か」という二者択一的な選択ではなく、第三の解決の道として、コモンズの当事者が自主的に適切なルールを決めて、自主的に統治できる(セルフガバナンスの)可能性があることを、実証的に、また理論的に示したので。

彼女は、世界中の数多くのコモンズの事例を^cタン念に調べ上げ、コモンズの自主的統治が長期的に存続していく具体的な条件を示した。

III、実証的に得られた知見を積み上げて、ゲーム理論を使って、特に自主管理にとって必要な協力行動について、その可能性を分析している。彼女の研究は、共有資源としてのコモンズという仕組みを社会のなかに広めていくことが社会の発展にとって非常に重要なテーマであるという考え方に支えられている。コモンズの利用を市場原理に任せるか、あるいは国家が管理するかという対立図式で、不毛な議論が続いている状況に対して、共有資源をきっちり管理していくためには、利害の対立を超えた協力関係の構築により自主的に管理していける第三の道があることを示したのである。

また、共有資源の管理という切り口で、地方の多様な創意工夫から生まれた仕組みに高い評価を与えたことは、地方が主体的に資源管理に向けて動いていく上での理論的な支柱にもなった。

「コモンズの悲劇」を生み出すのは、人々の利己的動機に基づく行動である。しかし、エリノア・オストロムが調べた数多くの事例は、コモンズの利用者が相互にケイ発し合い、学びながら長期にわたってコモンズを管理する知恵をジョウ成させていく可能性を示唆するものであった。彼女の研究は、政府による規制や市場原理に **ア** ことなく、地域の人々の自主的な管理によりコモンズの存続が可能であることを示している。地域の人々が自分たちの力を合わせれば、自主的に成長していけるといって、自信とやる気を与えてくれたことの意義は大きい。

彼女は、コモンズが長期に持続していく条件として、「コモンズの利用ルールと地域条件との調和」、「ルール違反者に対する段階的制裁」を挙げている。人間が利害対立を克服して協力を実現していくためには、地域の特性に応じた自ら守るべきルールを構築していくこと、そこにはルール違反者への制裁も伴うことなどを示したのである。

それは、地域におけるビジョンとしての将来計画と、それを実現するための規制計画に置き換えられる。長期的なビジョンを明確に持ち、その目標に沿って、それを阻むものは排斥していくという、強力な政策手段を持つことによって、コモンズとしての政策がより一層強いものになっていくのだ。

彼女の考え方がノーベル経済学賞の評価につながった要因の一つに、インターネットの普及があるといわれている。インターネットは、みんなが共通に利用できるシステムであり、モノや情報を所有する時代から、互いに利用し合う時代への変化を支える **イ** となってきた。情報通信技術の進展は、単体の排他的利用から、複数体による重層的な利用により資源の持つ価値を総体的に高めていく流れを着実に加速しているといえる。

「人類共通の資源である地球は有限」ということが共通認識となって議論されるようになったのは、ここ四〇年ぐらいのことだろう。最初の大きな転機は、一九七〇年代前半の「オイルショック」であった。それまであふれるばかりの石油を使って文明生活を享受していたのが、実は石油は限られた資源なのだということとを強く認識させられた出来事であった。それ以降、成長には限界があることを前提にした議論が展開される。ローマクラブの「成長の限界」というレポートが注目されるのもこの頃だ。ローマクラブが用いた経済予測モデルの手法であるシステム・ダイナミックスは、それまでの右肩上がりの直線的なトレンド（傾向）式の予測モデルではなく、曲線や下降線もある「限りある地球資源」を前提とした柔軟な発想でつくられているモデルであった。

それから二〇年以上が経過して、九〇年代に入って地球温暖化が大きな問題として議論されるようになった。当時、「コモンズとしての地球」という言葉が使われるようになった。わたしにとつて、一九九二年のリオデジャネイロで開催された地球サミットは大きな転換点であった。それまで開発と環境を対立概念としてとらえてきた政策論議が、「持続可能な開発（サステイナブル・デベロップメント）」という概念で、同じ土俵で議論できるようになったことは、革命的ともいえる転機であった。それまで「開発か環境か」で不毛なエネルギーを費やすことが多かった議論が、「持続可能な開発」というコンセプトを共有することで発展的に進むようになったことの意義は極めて大きい。

さらに、二〇一五年九月の国連サミットで持続可能な開発を進めていくための具体的な目標（SDGs）が採択されたことはさらに大きな前進だ。持続可能な世界を実現するために、具体的に一七のゴールと一六九のターゲットを示し、それを世界の国々が共有して、共通の目標に向かって協調して取り組む潮流が

生まれてきた。特に、世界が求める変化を「見える化」したことで、民間企業においても社会的な課題解決を事業成長に結びつけていく機運が高まってきたことの意義は大きい。これは難しい環境問題や貧困問題などが、市場メカニズムによって解決される可能性が出てきたともいえる動きだ。

このように、社会活動や経済活動において、限られた地球資源をしっかりと次の世代につなげていくという「持続可能性」の概念を多くの人々が共有することは大変重要なことだ。それと同時に、わたしは空間軸（地域軸）の視点で持続可能性を考えていくことが重要だと考えている。今我々が住んでいる地球上の土地空間を、どうやってより公平に、有効に限られた資源として使っていくのかという視点でこれからの社会システムを創りあげていく、そのための有効で適切な概念がコモンズであると考えている。そのために、新たな地域社会のパラダイムとしてコモンズを提起していきたいと考えている。もともと、持続可能性という言葉が広く使われるようになった契機は、一九八七年の国際連合の「環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」の報告書であるが、その表題は「Our Common Future（我ら共有の未来）」である。共有の未来に向けて、空間的に共有していく思想を伝えるためには、コモンズという言葉がふさわしいように思える。

歴史小説家である司馬遼太郎氏が、晩年に強く主張していたのは、日本の国のかたちを一番ゆがめているのは土地の所有制度だということであった。日本は土地の私的所有権が強く守られている。土地がいったんある人や、ある企業のものになると、土地利用制度の **ウ** 性から非常に **エ** 的に使われ、思いついたまちづくりや地域の活性化プロジェクトを進めていく上で、大きな障害となる事例は多い。

所有者がいたからといって、それはその人だけのものなのか。その土地が持っている地球の一部としての空間の有効利用というものを、所有と利用の機動的な調整というものを、公とわたし、あるいは新しい公共というような、そういう視点で考えていこう、と司馬遼太郎が最後に発し続けたメッセージの意味は重い。これからは、排他性をやわらげながら、土地、空間の持っている価値を高めていく仕組み、政策の構築が求められるっており、そこにコモンズの意義もあると思われる。

土地というのは限られた人類共通の資源だが、日本の場合、明治以来伝統的に土地については私的所有権が強く守られ、土地のコモンズ的な利用は大変難しい。

その理由は、日本では土地を利用する権利よりも、土地を処分し、そこから収益を上げることと力点が置かれてしまうところにある。バブル期までの日本では、保有しているだけで土地がどんどん値上がりする時代が長く続いた。他人に貸して賃料を得ることもできるし、銀行は土地さえあればそれを担保に金を貸してくれた。個人も企業も何のためらいもなく土地売買で利潤を追求していくことを志向した。そこからは、社会的に有用な利用を図ろうとか、公的な要請を受けとめて柔軟にオープンな利用を認めていこうという動機づけはなかなか生まれてこない。政府部門などの公的セクターも、公的な利用という目的を実現するためには、多大な公的資金（税金）を投入して土地の所有権を取得するしかない。

この背景には、土地を資産、商品としてとらえる意識が強いことがある。わが国では土地は個人にとって生涯をかけて取得することが目的となるほどに大切な資産として考えられている。土地は持っているだけで多様な利益を得られる機会があるのだ。しかし、これまでの所有感覚を少しでも見直して、コモンズとして有効活用していく新たな社会システムが生まれれば、わが国の都市政策、地域政策は大きく進化していくだろう。これからは、土地等の資源利用を、市場原理に任せるか、あるいは国家が管理するかのどちらかという図式でなく、利害の対立を超えた協力関係の構築により、自主的に管理していく第三の道がある——これこそエリノア・オストロムが探求してきた方向でもある。

問一 傍線部 a ～ e の漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の 1 ～ 5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

a 浸トウ

- 1 トウ析治療が続く
- 2 哀トウの意を表する
- 3 周トウに準備を進める
- 4 ここはまるでトウ源郷だ
- 5 主人公に自分をトウ影する

b 業セキ

- 1 累セキする債務
- 2 職セキを全うする
- 3 セキ別の辞を述べる
- 4 セキ日の面影を残す
- 5 ここは紡セキが盛んだ

c タン念

- 1 財政が破タンする
- 2 タン物を扱う呉服屋
- 3 タン精を込めて作る
- 4 有名作家の生タンの地
- 5 心タンを寒からしめる犯行

d ケイ発

- 1 王位をケイ承する
- 2 神のケイ示を受ける
- 3 ケイ体で書かれた文章
- 4 ケイ雪の功を積んだ苦勞人
- 5 ケイ口となるも牛後となるなかれ

e ジョウ成

- 1 清ジョウな空気
- 2 気ジョウに振る舞う
- 3 ジョウ脈に注射する
- 4 天然ジョウ造の醤油
- 5 ジョウ長な文章を書く

問二 空欄Ⅰ～Ⅲに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号はⅠⅡ 、ⅡⅡ 、ⅢⅡ 。

- 1 さて
- 2 さらに
- 3 意外にも
- 4 その結果
- 5 しかし

問三 傍線部1「皮肉な表現をすれば、これこそ『コモンズ』についての悲劇』であったかもしれない」とあ

るが、「コモンズ」としての悲劇」という「表現」が「皮肉」なのはなぜか。最も適当なものを、次の

1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 「コモンズの悲劇」という言葉をもじって当てこすっているから。
- 2 ハーディンが経済学者ではなく生物学者だから。
- 3 市場原理に任せておくと、共有地に悲劇をもたらしてしまうから。
- 4 「コモンズの悲劇」が発表されたのが、ちょうど公害問題が巻き起こっていた時だったから。
- 5 だれでも牛を放牧できるという利点があるのに、最後には牛が死んでしまうから。

問四 傍線部2「ハーディンの提起した悲観的なコモンズ論とは異なる視点」とあるが、具体的にどのよう

な視点か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 コモンズの利用を市場原理に任せるといふ視点。
- 2 自主的な統治によってコモンズが成立し得るといふ視点。
- 3 国家の介入によって共有地の管理が可能になるといふ視点。
- 4 資源の利用について深刻な利害対立が発生するととらえる視点。
- 5 社会や国家の長期的な存続の可能性を実証的かつ理論的に示す視点。

問五 傍線部3「不毛な議論が続いている」とあるが、なぜ「不毛」であると考えられるのか。その理由と

して最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 ゲーム理論のような理論的な支柱が存在しないから。
- 2 社会の発展にとって重要な議論であるとは言えないから。
- 3 「政府か」「市場か」という議論では解決が得られないから。
- 4 現実の社会においては対立図式を想定することができないから。
- 5 利害の対立を超えて協力関係を構築することには無理があるから。

問六 空欄Aに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 適う
- 2 委ねる
- 3 逆らう
- 4 一目置く
- 5 かどわかされる

問七 空欄イに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 危険な廃棄物
- 2 頑丈な構造物
- 3 ソフトなインフラ
- 4 フレキシブルな考え方
- 5 個性的なディスプレイ

問八 傍線部4「世界が求める変化を『見える化』した」とはどのようなことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 開発と環境という対立する概念が同じ土俵でとらえられるようになったということ。
- 2 システム・ダイナミックスという柔軟な発想でつくられたモデルを使用したということ。
- 3 国連サミットで持続可能な開発を進めていくための具体的な目標について話し合われたということ。
- 4 持続可能な世界を実現するためのゴールとターゲットの内容と数を示したということ。
- 5 共通の目標に向かって協調して取り組む潮流を生み出したということ。

問九 傍線部5「新たな地域社会のパラダイム」とはどのようなことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 新たな地域社会を賞賛する立場。
- 2 新たな地域社会から得られる産物。
- 3 新たな地域社会を作り上げていく計画。
- 4 新たな地域社会を定義するための用語。
- 5 新たな地域社会についての見方や考え方。

問十 空欄ウとエに入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| 1 | ウ | 意外 | エ | 発展 |
| 2 | ウ | 可変 | エ | 利己 |
| 3 | ウ | 必要 | エ | 日常 |
| 4 | ウ | 利便 | エ | 感情 |
| 5 | ウ | 硬直 | エ | 排他 |

問十一 傍線部6「日本の場合、明治以来伝統的に土地については私的所有権が強く守られ、土地のコモンズ的な利用は大変難しい」とあるが、その理由としてふさわしくないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 土地を資産、商品としてとらえる意識が強いから。
- 2 土地を処分し、そこから収益を上げることに力点が置かれるから。
- 3 保有しているだけで土地がどんどん値上がりする時代が長く続いたから。
- 4 社会的に有用な土地の利用が図られていたから。
- 5 土地さえあれば銀行が金を貸してくれたから。

問十二 本文の内容と合致しないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 ローマクラブは、今後、成長が右肩上がりではなく、下降線になっていくと予測した。
- 2 「持続可能な開発」という概念により、開発と環境を対立させずにとらえることができるようになった。
- 3 経済学でよく使われる「コモンズの悲劇」を紹介したのは、経済学者ではなく生物学者である。
- 4 エリノア・オストロムは、コモンズを長期に持続するためにはルール違反者への制裁も必要だとしている。
- 5 利害の対立を超えた協力関係の構築により、土地等の資源を自主的に管理していく第三の道がある。

(二) 次の文章は、上橋菜穂子のファンタジー小説『精霊の守り人』の冒頭部分である。これを読んで、後の問い(問一～十)に答えよ。

バルサが鳥影橋を渡っていたとき、皇族の行列が、ちょうど一本上流の、山影橋にさしかかっていたことが、バルサの I を変えた。

鳥影橋は平民用の粗末な吊り橋で、ところどころ板が腐り落ちて、隙間から青弓川の流が見える。ふだんでもあまり気持ちのよい光景ではないが、今日は、このところ秋の長雨が続いたせいで川の水かさが増え、茶色く濁った水が、白く泡だちながら、さかまいて流れていて、とくに恐ろしい光景だった。

すりきれた旅衣をまとい、頭陀袋を短めの手槍(短槍)にひっかけてかついだバルサは、しかし、眉ひとつ動かさずに、ゆらゆら揺れる鳥影橋を渡りはじめた。

バルサは今年三十。さして大柄ではないが、筋肉のひきしまった柔軟な身体つきをしている。長い脂っけのない黒髪をうなじでたばね、化粧ひとつしていない顔は日に焼けて、すでに小じわが見える。

しかし、バルサをひと目見た人は、まず、その目にひきつけられるだろう。その黒い瞳には驚くほど強い精気があった。がっしりとした顎とその目を見れば、バルサが容易に手玉にはとれぬ女であることがわかるはずだ。——そして、武術の心得のある者が見れば、その手強さにも気づくだろう。

バルサは、風に頼りなく揺れる橋を II 渡りながら、ちらりと上流を見た。

そびえたつ山の肌を、まっ赤に色づいた紅葉があざやかに染めている。その紅葉の下を、金の止め金を光らせた牛車(ぎっしゃ)が一台、二十人ほどの従者に守られながら進んでいくのが、小さく見えた。

西日の中で、牛車にかけられた錦と、金具がピカリ、ピカリと日をはじめて進んでいく。牛車の先につけられた赤い旗が、乗る者の身分を示していた。

(第二皇子の行列か。山の離宮から都へ帰る途中だね)

バルサは、立ち止まってその行列をながめた。これだけ離れていれば、土下座をしなくとも罪にはなるまい。それに、ちょうど日は西にかたむいて背後から照っている。逆光の中では、バルサの姿など点にも見えないだろう。山陰の紅葉の下の行列は A のように美しかった。

バルサは、この国の生まれではない。それに、決して忘れることのできぬある理由から、王とか帝とかいう者たちへの尊敬の念は、ほとんどもっていないかった。ただ、まるで一幅の I のような、一瞬の美しさに見とれていただけだった。

が、つぎの瞬間、思わぬことが起きた。頑丈につくられている皇家専用の山影橋の中ほどまで牛車がさしかかったとき、突然、牛が暴れはじめたのだ。馬銜をひいていた従者の手をふりきり、牛は背を弓なりにして、前に、うしろに、蹄を蹴りあげ、角をふりたて、暴れくるいながら暴走した。従者たちが止める間もなく、牛車が大きくふりまわされるかたちで横転し、中から小さな人影が宙に飛ばされるのが見えた。

人影が手足をばたばたさせながら谷川に落ちていく……と、思ったときには、バルサは荷を置き、上衣をぬいで、短槍の石突の金具に、懐からだした巻縄の先端の金具をカチリとつなぐと、短槍をビュッと岸に投げた。短槍は一直線に岸にとび、深ぶかと岩のあいだの地面に突き刺さった。三、四人の従者が皇子を追って川にとびこんだのを目の端にとらえながら、バルサは縄をもって、濁流に身を III 。

X 衝撃がきた。つかのま息がつまり、意識が遠くなった。バルサは濁流に激しくもまれながら、縄をたぐって、いったん手近の岩にのぼった。濡れてまといつく髪をかきあげて、じっと目をこらすと、小さな赤いものが流れてくるのが見えた。ひらひらと、その赤いものからときおり手が見えては、沈んでいる。

(気絶してしておくれ。頼むから、気絶してしておくれよ)

バルサは **IV**、見当をつけると、ふたたび激流にとびこんだ。流れに逆らって泳ぎながら、ちょうど流されて達する地点に皇子の身体がくるよう、**A** 水をかいていく。身を切るような冷たい水だった。ゴボゴボツと耳の奥で水音が鳴った。濁った水流の中で、かろうじて皇子の衣の赤い色だけが見えた。のびした手の中を、皇子の衣の端がすりぬけた。

(しまった！)

^③ ほぞをかんだ瞬間、奇妙なことが起きた。まばたきする間ほどの、ほんの一瞬、バルサは、身体が **B** 軽くなるのを感じた。あれほど荒れくるっていた水の流れが止まり、音さえも消え去り、どこまでも透きとおった青い空間の中で静止している。皇子の姿だけが、くつきりと見えた。なにが起きたのかわからぬままに、バルサは、ふたたび赤い衣に手をのびした。

つかんだ、と思ったとたん、**Y** 衝撃がきた。たったいまのふしぎな一瞬は、夢にすぎなかったのか、激しい水流が、ふたりの身体を木の葉のようにもてあそんだ。

渾身こんしんの力をこめてバルサは皇子の身体をひきよせ、その帯に繩の金具をかませた。凍こおりそうな水の中で、かじかんだ手で、それだけのことができたのは奇跡に近かった。バルサはまず、自分が繩をたどって岸まで泳いだ。身体がばらばらになりそうに疲れていたが、それから、**C** 繩をたぐって、ぐったりと動かない皇子の身体をひっぱりよせた。

ひきあげた皇子の顔は、まっ青だった。まだ、十一、二歳ほどだろう。ありがたいことに、念じたとおりに落ちた衝撃で気絶したらしい。腹が水ぶくれているなかった。バルサは活かつを入れ、蘇そせいじゆつ生術をほどこした。やがて、咳きこむ音とともに、皇子の呼吸が回復した。

(やれやれ。どうやら命は救えたみたいだね)

バルサは、ため息をついた。だが、いまの彼女には知りようもなかったが、これは、すべてのはじまりにすぎなかったのである。

(上橋菜穂子『精霊の守り人』による)

注 ○頭陀袋——本来は、修行僧が経巻や僧具などを入れ首にかけて持ち歩く袋。ここではバルサが自

分の荷物を入れて持ち歩く、首かけ紐の付いた袋。

○馬銜——馬や牛の口に含ませる主に金属製の棒状の道具。

○石突——槍などの柄の、地に突き立てる部分を包んでいる金具。

問一 空欄Ⅰに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は **19**。

- 1 運命
- 2 根性
- 3 性格
- 4 挑戦
- 5 約束

問二 傍線部①「眉ひとつ動かさずに」とあるが、ここからバルサがどのような人物だと想像されるか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□20。

- 1 年齢以上に大人びた、鈍感な人物。
- 2 非情な精神の持ち主で、孤独を抱えた人物。
- 3 他者に興味を示さない、内向的な人物。
- 4 些細なことには動じない、豪胆な人物。
- 5 優しさを失った、暗い過去のある人物。

問三 傍線部②「手玉にはとれぬ」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□21。

- 1 手先が器用ではない
- 2 箸にも棒にもかからない
- 3 自分の思い通りに操ることができない
- 4 どこへ行くのか全く予想できない動きをする
- 5 つかまえようとする、するりと逃げてしまう

問四 空欄Ⅱに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□22。

- 1 ゆっくりゆっくり
- 2 おそろおそろ
- 3 ばたばたと
- 4 すたすたと
- 5 じりじりと

問五 空欄ア・イに共通して入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□23。

- 1 花
- 2 絵
- 3 夢
- 4 奇跡
- 5 幻想

問六 空欄Ⅲに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 あわせた
- 2 まかせた
- 3 くねらせた
- 4 もちこんだ
- 5 おどらせた

問七 空欄X・Yに入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- | | | | |
|-----|-------------------|---|---------------------|
| 1 X | 台風に巻き込まれたような | Y | 手がやけどしそうな |
| 2 X | 石畳に叩きつけられたような | Y | 手がちぎれそうな |
| 3 X | 巨大なサメの口の中にとび込むような | Y | 手首がはげしく回転するような |
| 4 X | 川底まで引き込まれそうな | Y | 皇子の手が強くバルサの手を握るような |
| 5 X | 何者かがバルサを拒絶するような | Y | やはり間に合わなかったと後悔するような |

問八 空欄Ⅳに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 目を剥いて
- 2 念じて
- 3 大きく息をして
- 4 大声で叫び
- 5 肩を大きく回して

問九 傍線部③「ほぞをかんだ」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 くやしくて唇を強く噛みしめた
- 2 自らを罰するように自分の手首を噛んだ
- 3 思い通りに行動できなかった軽率さを自ら責めた
- 4 取り返しが付かないことをしたと後悔した
- 5 安易な目算で行動したことを心の中で反省した

問十 空欄 A・B・C に入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の 1～5 のうちから一つ選べ。解
答番号は 28。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-------|---|----------|
| 5 | A | ぐいぐい | B | ふわっと | C | ぐいっぐいっ |
| 4 | A | ひらひら | B | ほんど | C | じっくりじっくり |
| 3 | A | すいすい | B | じっとりと | C | するすると |
| 2 | A | ちよこちよこ | B | ぽっかりと | C | みるみる |
| 1 | A | やすやす | B | きつちりと | C | ぐんぐん |

(三) 次の文章を読んで、後の問い(問一～八)に答えよ。

著作権の都合により、省略。

問一 傍線部①「高村光太郎」の詩集はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答

番号は 。

- 1 わがひとに与ふる哀歌
- 2 月に吠える
- 3 春と修羅
- 4 測量船
- 5 道程

問二 空欄ア・イに共通して入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答

番号は 。

- 1 人道主義
- 2 自然主義
- 3 社会主義
- 4 現実主義
- 5 愛国主義

問三 傍線部②「『あの頃の自分の事』」には、「別稿」があり、そこで芥川龍之介は、ある作品を執筆した

理由を次のように述べている。

「当時書いた小説は、『X』と『鼻』との二つだった。自分は半年ばかり前から悪くこだはつた恋愛問題の影響で、独りになると気が沈んだから、その反対になる可く現状と懸け離れた、なる可く愉快な小説が書きたかつた。そこでとりあへず先、今昔物語から材料を取つて、この二つの短篇を書いた。」

右の空欄Xに入る作品はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 河童
- 2 羅生門
- 3 戯作三昧
- 4 枯野抄
- 5 蜜柑

問四 空欄Ⅰに入る、武者小路の作品はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 友情
- 2 五重塔
- 3 田園の憂鬱
- 4 蟹工船
- 5 浮雲

問五 傍線部③「『それから』」は、夏目漱石の作品で、「前期三部作」と呼ばれる作品群の二番目の作品である。では、前期三部作の、一番目と三番目の作品はどれか。その組み合わせとして正しいものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- | | | |
|---|----------|---------|
| 1 | 一番目 行人 | 三番目 ころも |
| 2 | 一番目 夢十夜 | 三番目 草枕 |
| 3 | 一番目 二百十日 | 三番目 野分 |
| 4 | 一番目 道草 | 三番目 明暗 |
| 5 | 一番目 三四郎 | 三番目 門 |

問六 空欄Ⅱに入る、志賀の作品はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 青年
- 2 痴人の愛
- 3 暗夜行路
- 4 伊豆の踊子
- 5 上海

問七 傍線部④「霊と肉など二元対立の葛藤の苦悩とその止揚」とあるが、この意味の説明として正しいものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 低い次元では矛盾・対立する霊魂と肉体を、より高次の段階に高めて、新しい調和と秩序のもとに統一すること。
- 2 死後の霊体と、生前の肉体とを、対立するものではなく、前後で繋がった一つの意識体として認識すること。
- 3 肉体を否定し、霊魂と共鳴することこそが、対立する概念を超えた真の人間存在の根本であると再認識すること。
- 4 物事を対立構造で捉えることで真実が見えなくなり苦しむので、苦しみそのものを追求することで苦しみを解消すること。
- 5 二元対立に対して、更に新しい視点を導入することで、より多面的な認識構造を打ち立てること。

問八 空欄Ⅲに入る、有島のエッセイはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 私小説論
- 2 宣言一つ
- 3 「敗北」の文学
- 4 或阿呆の一生
- 5 様々なる意匠